

# 就労支援フォーラム NIPPON 2020 分科会

破綻解雇事件のあと、A型事業所は存続できるのか？

～働きがいのある仕事の提供ができないところは撤退か？良きと悪しき事業所が徹底討論

## 報 告 書

日時 2019年12月15日（日）11:00-12:30

場所 ベルサール新宿グランド 分科会Ⅱ-ケ

### 参加者

進行 朝日雅也氏 埼玉県立大学 副学長／保健医療福祉学部社会福祉子ども学科 教授  
登壇者 萩原義文氏 NPO 法人就労継続支援 A 型事業所全国協議会 副理事長  
前田隆之氏 都市環境サービス株式会社 代表取締役  
加藤裕二氏 社会福祉法人オリーブの樹 理事長

### 内容

朝日雅也氏：

討論に先立ち、A型事業所について法律的、社会的な面から施設の概要と存在意義等を整理し、改めて問題を提起頂いた。

萩原義文氏：

「良きA型」の代表として、ご自身の運営されている事業所の説明と、倉敷・広島で発生した大量解雇の事例を取り上げ、A型事業所の存続について「障がい者の問題はすべて関わって来た人の問題」として在り方を定義された。

前田隆之氏：

周囲の様々な事業所から得た情報から、「悪しきA型」の代表として発表頂いた（前田氏の事業所は「悪しきA型」ではない）。ビジネスモデルや仕組みとして、営利法人としてはビジネスとして成立しており、「何をもって”悪しき”であるのか」という問題を提起された。

加藤裕二氏：

30年以上に渡り就労支援にて活動し、様々な観点からA型事業所に携わってきた経験から、中立の立場として意見を述べて頂いた。措置制度から支援費制度、自立支援法に至る障害者雇用と授産施設の歩みの中で各々が抱える課題を引きずっていることが原因ではないかと推測された。



会場の様子



左より 萩原氏、前田氏、加藤氏、朝日氏

## まとめ

「良きA型とは何か」という問いに対して各登壇者より意見が交わされた結果、どの登壇者の発言からも、現場で働く利用者にとってA型事業所は必要であり、存続すべき存在であることは大いに感じられた。

「社会福祉法人＝良き、株式会社＝悪しき」という単純な問題でなく、またこの問題の解決には法整備のみでの解決は難しいように思われる。協議会として引き続き議論を重ねる必要があるように感じられた。